

年表

TIMELINE



Nationally Designated Historic Site : Komorizuka Burial Mound

The Komorizuka Burial Mound is a keyhole-shaped tomb with a total length of about 100 meters. One of the largest horizontal stone chambers in Okayama Prefecture is located in the rounded portion of the tomb, measuring a total length of 19.4 meters with its entrance facing to the southwest direction. A house-shaped stone coffin lies within the stone chamber. From the ceramic coffin, which was discovered in addition to a stone sarcophagus, it is understood that several burials have been carried out on these grounds. Furthermore, a variety of tomb furnishings, including weapons, horse harnesses, decorative ornaments, and Sue Ware (unglazed pottery), have also been unearthed.

The Komorizuka Burial Mound is thought to have been constructed in the latter half of the 6th century. From its status as the largest 6th century keyhole-shaped tomb in the Kibi region, its enormous stone chamber, and its wealth of tomb furnishings, those interred in the Komorizuka Burial Mound are speculated to be members of the Kibi region's most powerful family of the time.



こうもり塚古墳への行き方

所在地:総社市上林

車でお越しの場合

山陽自動車道倉敷ICから吉備路風土記
の丘県営駐車場まで約9分
駐車場から徒歩約7分

公共交通機関でお越しの場合

JR桃太郎(吉備)線東総社駅からタクシーで約12分

総社駅や備前一宮駅などでレンタサイクルも利用でき便利です

発行：岡山県古代吉備文化財センター

所在地：〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL:086-293-3211 FAX:086-293-0142

古代吉備文化財
センターHPは
こちら



発掘現場から
文化力



日本遺産
JAPAN HERITAGE

2021年11月刊行 

国指定史跡

こうもり塚古墳

KOMORIZUKA Burial Mound

岡山県古代吉備文化財センター

こうもり塚古墳とは

総社市南東部から岡山市西部にかけての一帯は、全国第4位の大きさを誇る造山古墳をはじめ、こうもり塚古墳、作山古墳、備中国分寺跡など、全国的に著名な史跡が集中し、「吉備路風土記の丘」として親しまれています。

このうちこうもり塚古墳は、古墳時代後期の大型前方後円墳で、巨大な横穴式石室に貴重な品々を副葬する、吉備の有力豪族の墓です。

こうもり塚古墳は、昭和42(1967)年と昭和53(1978)年に発掘調査が行われました。岡山県教育委員会では、令和2年度から「吉備路の歴史遺産」の魅力を発信する事業の一環として、こうもり塚古墳の総合調査を実施しています。

中・四国最大級の後期古墳

こうもり塚古墳は、墳長約100mの前方後円墳で、細長い自然丘陵を利用して造られています。上下2段に築造された墳丘の西側から南側にかけては、幅約15～20mのテラス状の外縁が見られます。しかし、古墳によく見られる葺石や埴輪は発見されていません。

巨大な横穴式石室

後円部に設けられた横穴式石室は死者を埋葬するための石組みの部屋で、この地域では、6世紀中ごろから普及し始めます。

こうもり塚古墳の横穴式石室は、全長約19.4mを測る巨大なもので、天井や奥壁には長さ約3mもの大型の石材を使用するほか、側壁にも大きな石を利用しています。

また、玄室が長方形で、天井が水平である点や、石材を積み上げて入口を塞ぐ点は、当時政治の中心であった近畿地方の横穴式石室とよく似ていますが、奥壁に大きな石材を据えたり、楣石を一段低く架けわたしている点で異なります。

箭田大塚古墳(倉敷市)と牟佐大塚古墳(岡山市)とともに岡山県三大巨石墳と呼ばれているよ!

こうもり塚古墳の鳥瞰図



*この図は現在の地形をもとに古墳を復元しています



空から見たこうもり塚古墳



石室入口の閉塞石

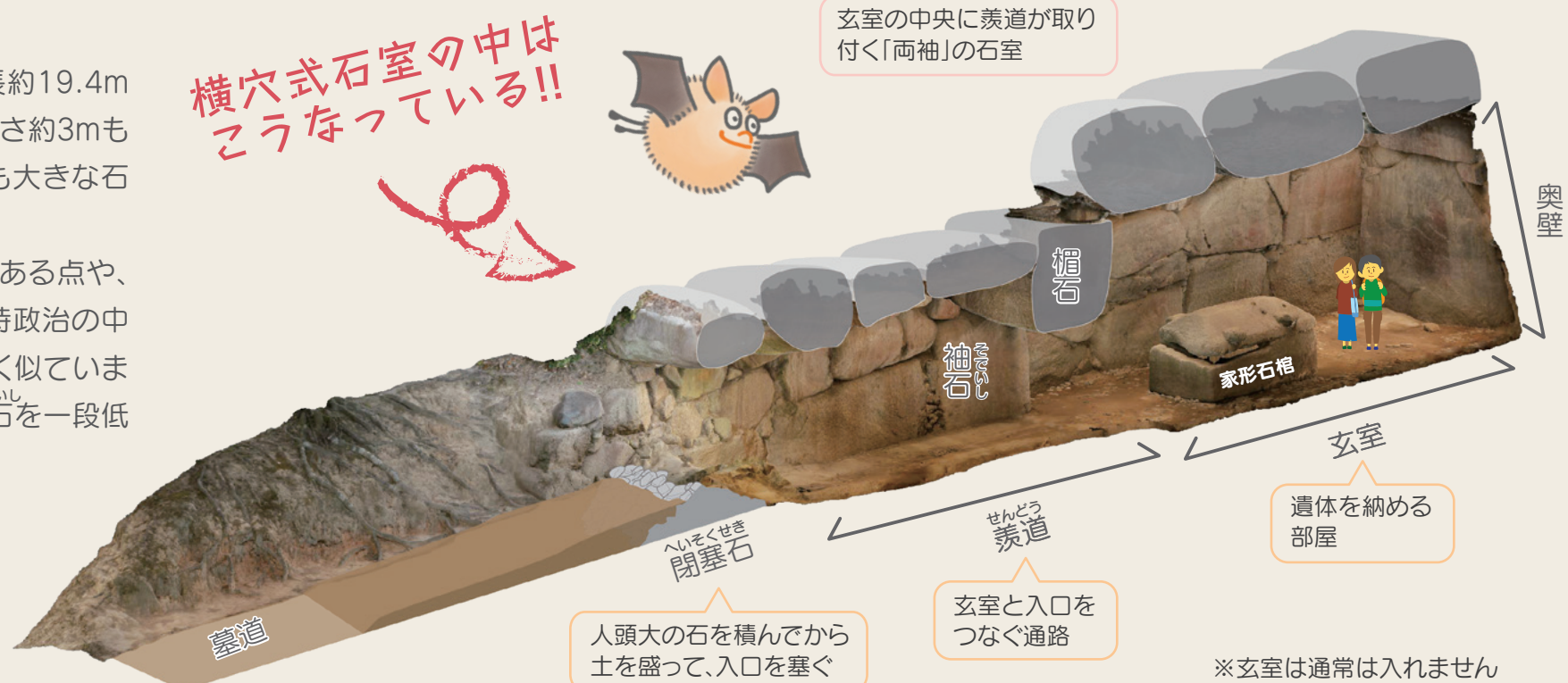


玄室入口の袖石と楣石



玄室奥の巨石

横穴式石室の中はこうなっている!!



※玄室は通常は入れません

「こうもり塚古墳」という名称の由来については、江戸時代末期から明治時代初期の史料に、地元で「籠り塚」と呼ばれていたこと、コウモリが多くいたことから俗に「こふもり塚」とも言われていたことなどの説があるよ。

吉備独自の棺

こうもり塚古墳の石室では石棺と陶棺が発見されています。

蓋が屋根形をした家形石棺は、主に近畿地方の石材を加工してつくられ、大王墓や有力豪族の墓に使用されました。しかし、こうもり塚古墳の家形石棺は、県内産の貝殻石灰岩(浪形石)を用いた吉備独自のものです、県内で5例しか発見されていません。



貝殻石灰岩製の石棺



陶棺復元図(白抜きは復元) (『総社市史 考古資料編』1987)



陶棺の蓋

この部分

石室に供えられていたもの

こうもり塚古墳は早くから盗掘が繰り返されていましたが、発掘調査によって、多くの副葬品が見つかりました。

銅に鍍金をした飾りをもつ環頭大刀や馬具は、近畿地方の有力豪族から配布されたと考えられています。そのほか、鉄製の刀や鍬といった武器、耳環(耳飾り)やガラス・水晶製の玉を用いた装身具、土師器や須恵器などの土器も出土しており、古墳が築かれた年代や被葬者の地位・性格を考える上で重要な手掛かりとなっています。



単鳳環頭大刀柄頭



鉄鍬



土師器と須恵器



耳環と水晶製の玉

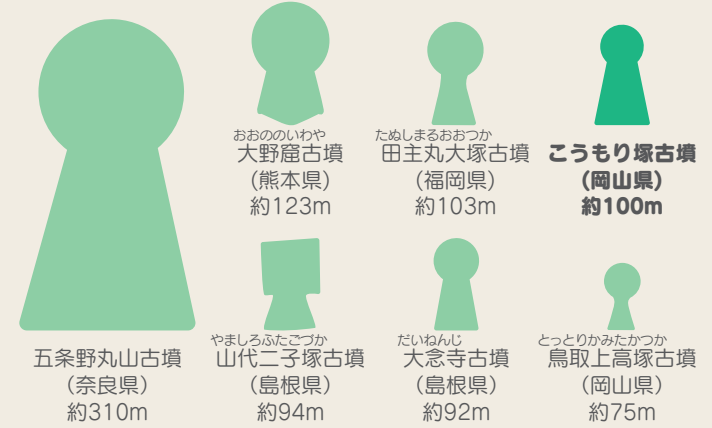
こうもり塚古墳から分かること

こうもり塚古墳は、古墳時代後期後半(6世紀後半)に築かれた墳長約100mの大型前方後円墳で、同時期中・四国、九州地域では最大級の規模を誇ります。しかも、やや長めの前方部に小高い後円部をもつ墳丘は、天皇陵との説がある奈良県五条野(見瀬)丸山古墳と類似しています。また、巨大な横穴式石室は、6世紀後半において五条野丸山古墳に次ぐ規模です。さらに、横穴式石室から出土し

た環頭大刀や馬具は、近畿地方との関わりでもたらされた可能性も指摘できます。

一方で、この地域の特徴をもつ横穴式石室や、県内産の石材を加工した家形石棺からは、この古墳の独自性がうかがえます。

こうもり塚古墳に葬られた人物は、この地域の有力者で、大和政権と強く結びついていた西日本屈指の豪族であったと考えられます。



西日本における前方後円(方)墳の比較(古墳時代後期後半)

所在地	古墳名称	築造時期	石室全長
奈良県	こじょうの五条野(見瀬)丸山古墳	6世紀	約28.4m
福岡県	みやじの宮地嶽古墳	7世紀	約23m
総社市	こうもり塚古墳	6世紀	約19.4m
倉敷市	やたのおつか箭田大塚古墳	6世紀	約19.1m
奈良県	いしだの石舞台古墳	6～7世紀	約19m
岡山市	むさのおつか牟佐大塚古墳	7世紀	約18m
奈良県	ふじの藤ノ木古墳	6世紀	約14m

全国の巨大横穴式石室